



6

オトタチバナヒメ

5

ヤマトタケル

4

ヤマサチビコ

3

トヨタマヒメ

2

カムヤマト
イワレビコ

1

ウミサチビコ



急いで袋の口を開くと、中には火打ち石が入っていました。

ヤマトタケルは、とっさに周囲の草を剣でなぎ払うと、その草に火打ち石で火をつけました。こうして、あらかじめ身近な草を焼くことで、火の勢いを弱めることができたのです。

火が収まって野から出るとヤマトタケルは、だました支配者を切り殺し、火をつけて焼きました。それで、いまでもこの土地を焼遺と呼んでいます。また、草なぎの剣とは、このときに草をなぎ払ったことによって、名づけられました。



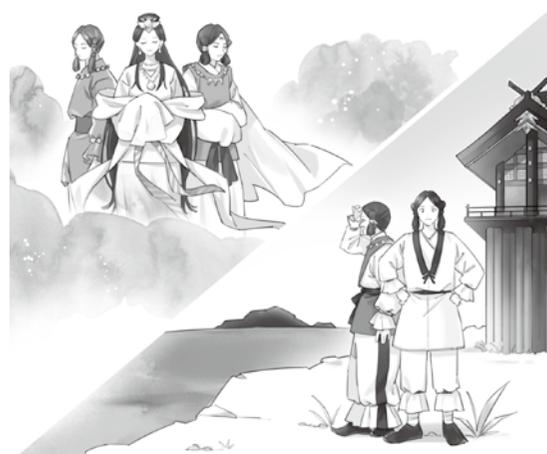
カムヤマトイワレビコ

神倭伊波礼毘古命



ウガヤフキアエズとタマヨリビメの子で、天孫であるニギのひ孫にあたります。天下を治めるべき土地を求めて、日向を旅立ち東へと向かいました。各地での歴戦ののちに畝傍の橿原宮で即位し、初代神武天皇となりました。橿原宮までの道のりは、天つ神の子孫がどのように世界を治め、初代天皇として即位するのかを語っています。奈良県の橿原神宮をはじめ、日本の建国をおこなった天皇として各地でまつられています。

天つ神・国つ神



天つ神とは、天上世界（高天原）にいる神、または天から降ってきた神です。また国つ神とは、国土で生まれた神のことです。天つ神は政治やまつり、軍事と関連することが多く、国つ神は土地の主として天つ神から支配される関係にあります。この関係は、天つ神の子孫が天皇として即位する物語の展開ともつながっています。そのため、神話の語り口としても、天皇の祖先にあたる神々には、天つ神の子孫であることが強調されています。